

キャンパスとその周辺

この写真も大雪の翌日に、赤く色づいた木と白い地面とのコントラストが気に入って研究室のベランダから撮ったものである。前にも書いたが、たびたびベランダに出て外の景色を眺めるのを日課にしている。春は桜、それから新緑、そして秋の紅葉とつづく。たまには冬の雪景色も良いものだ。



大学案内に「季節の移り変わりが実感できるコンパクトなキャンパス」と書いたことがある。このキャンパスには古墳とともに、なんとか緑も残っており、大切にしていきたいものだ。6階にある研究室のベランダから、こうした景観を一望できるのがありがたい。最近では名駅を中心に超高層ビルの建設状況を見ることができ、名古屋の「都市再生」を考えさせられることも多い。下の写真は先日までキャンパスに見られた黄色く輝くイチョウ並木である。風が吹いた日には、イチョウの葉が周囲に散らばる。景観とともに、周囲への影響や葉の「回収」も気になるところだ。



もう一つの写真はキャンパス南門あたりである。この門は閉鎖されているが、



八高時代には明治村に移設された立派な門があったという。いまはゴミ置き場になっている。キャンパスを外から眺めてみると、また違った顔が見えてくる。

(2005年12月23日 記)